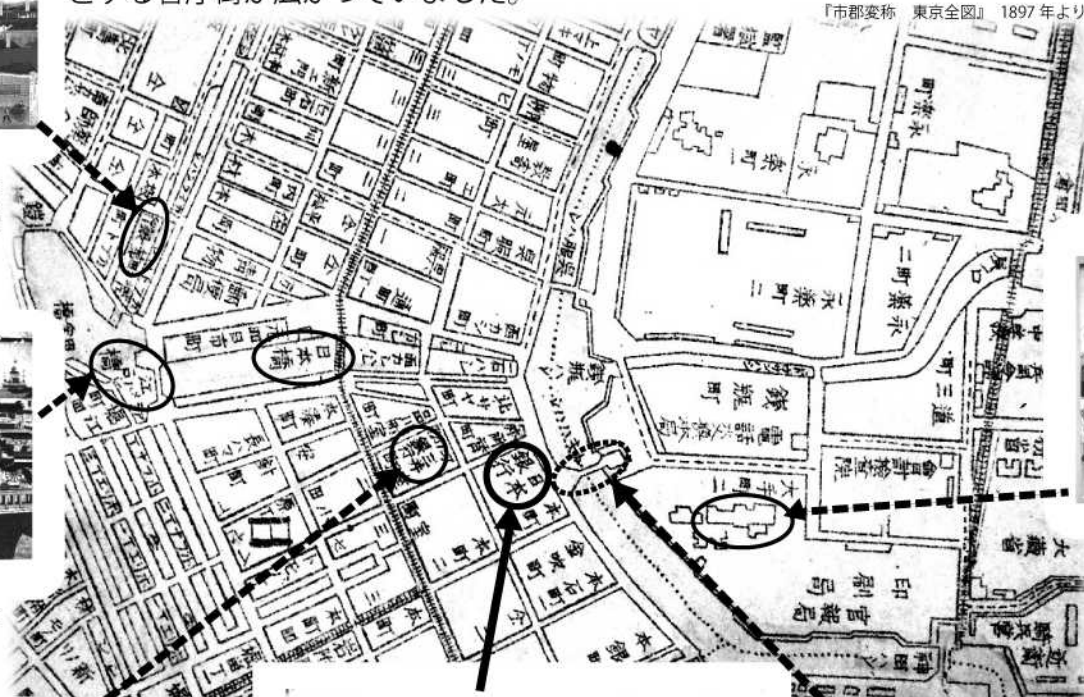


にちぎんがやってきた！ —古地図・錦絵にみる日本橋—

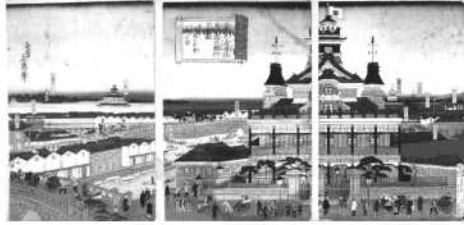
明治期の日本橋 ～地図に見るにちぎん本店の場所～

日本銀行は、1882(明治15)年永代橋際の旧北海道開拓使物産売捌所の建物を借用して開業し、1896(明治29)年に現在の日本橋本石町(当時の日本橋区本町・本両替町)に新築移転しました。

交通・商業の中心地であった日本橋には、当時、多くの金融機関が集まり、常磐橋を渡ると紙幣寮をはじめとする官庁街が広がっていました。



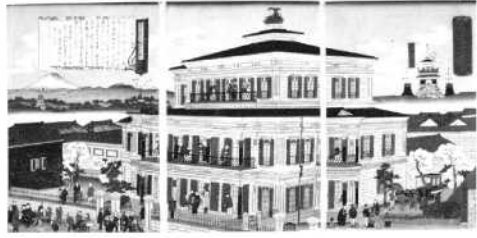
この明治期の地図や錦絵を見ながら、日本橋周辺を散策し、日本橋の古に想いを馳せてみてください。



第一国立銀行 (兜町)
この建物は、当初、三井組の建物として建築されましたが、第一国立銀行設立に際し三井組から譲り受けました。



東京名勝之内江戸橋之図
蔵が立ち並び、多くの船が行き交う江戸橋のたもとから、下流を眺めた風景です。



為換座三井組 (駿河町)
この建物は、海運橋の三井組ハウスの建物を第一国立銀行に譲渡したことに伴い建設され、三井組の本拠となりました。洋館の屋根に鯨を乗せた建物は、多くの見物人が訪れました。



常磐橋より日本銀行を望む
日本銀行本店の設計者は、赤レンガ造りの東京駅の設計などで知られる辰野金吾です。



常磐橋より日本銀行建築予定地を望む



紙幣寮
1876年、東京・常磐橋筋(大手町側)に建てられた紙幣寮(1877年に「紙幣局」に改称、後の印刷局)の建物。2階建赤レンガ作りの西洋建築のこの建物は、東京名所の一つとされました。

江戸期の日本橋 ~江戸大絵図より~

にちぎんがやってきた! -古地図・錦絵にみる日本橋-

江戸期の日本橋は、商業の中心地で数多くの商店が軒を連ね、日本橋川沿いには魚市場が広がり、活況を呈していました。現在の日本銀行本店の場所には、小判などの金貨を製造していた「金座」がありました。また、江戸城の外堀にかけられた常盤橋（常磐橋）を渡ると常盤橋御門があり、その内側には大名屋敷が広がっていました。



両替商で使用された天秤

本両替町

金座周辺には両替商が軒を連ね、辺りは本両替町と呼ばれました。

金座

金貨の製造のほか、金地金類の集散管理をした役所です。

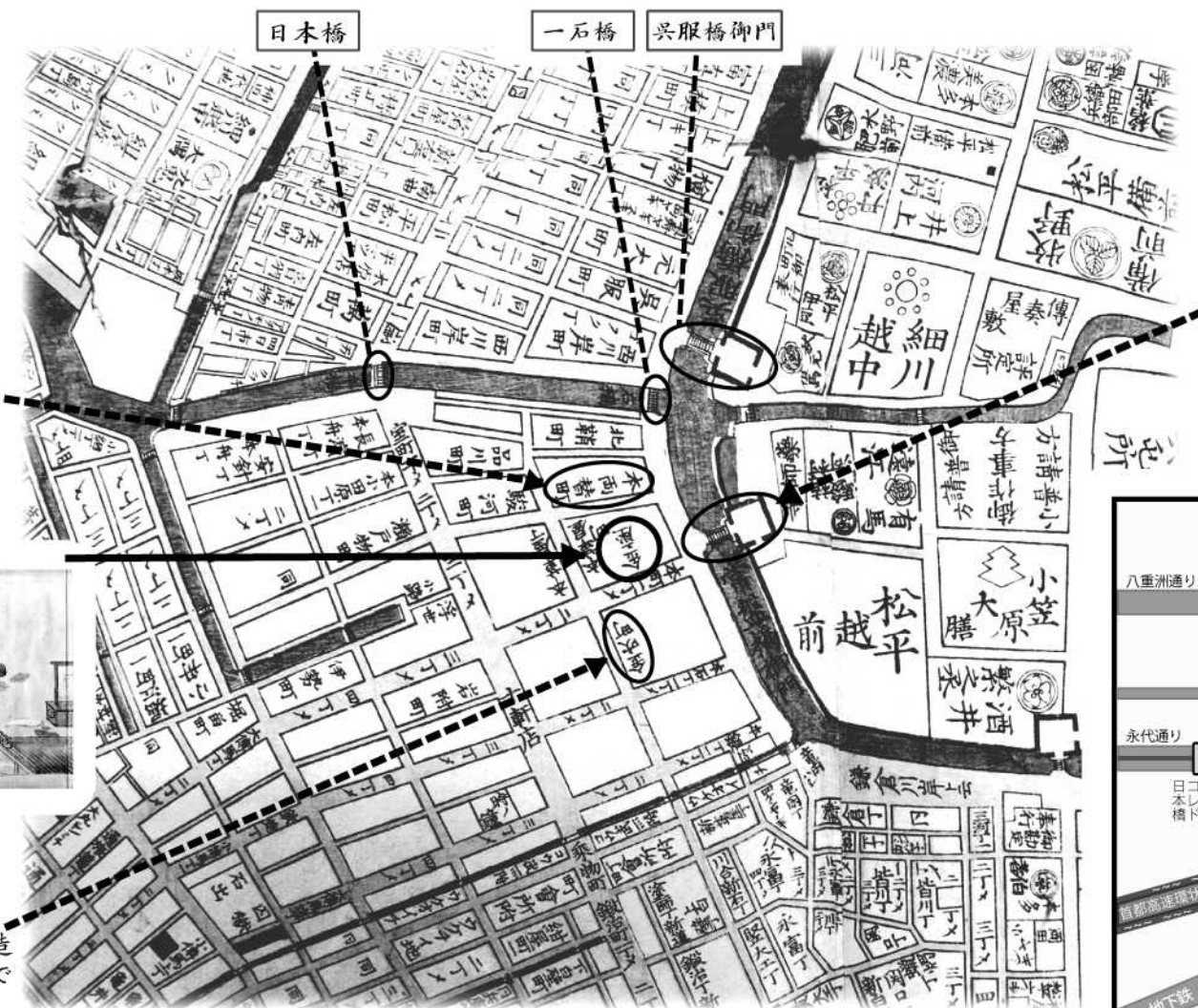


「金座絵巻」より

金吹町

江戸の金座は当初、金吹町にあった金貨製造人宅で金貨を製造し、それを本両替町付近の役所で検査を受ける方式でした。

後に、地図の「金座」役所内で全てが行われるようになりましたが、「金吹町」は江戸初期の金貨製造体制の名残の地名です。



『分間江戸大絵図 完』(幕末)

常盤橋御門

常盤橋に隣接する常盤橋御門は江戸城外郭の重要な門でした。城門は残っていないものの現在も枡形門の基礎の石垣がほぼ完存しています。

江戸城から町人地の中心日本橋本町に通じる重要な門で、浅草や上野、日光方面へのメインルートにあたりました。



現在の貨幣博物館（日本橋本石町）周辺

日本銀行金融研究所
貨幣博物館